

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名			
株式会社 ケアシステムズ			
②施設・事業者情報			
名称	それいゆ保育園	種別	事業所内保育事業
代表者氏名	園長 近藤 啓太	定員（利用人）	25
所在地	215-0001 川崎市麻生区細山1203番地		
電話番号	044-959-3003	ホームページ	https://www.misasakai.or.jp
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2015年7月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人 三篠会		
職員数	常勤職員： 11 名	非常勤職員：	5 名
専門職員	専門職名称	人数	看護師： 1 名
	保育士	15 名	名
	看護師	名	名
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)	
	4	保育室・調乳室・保育園事務室・テラス	
③理念・基本方針			
<p>☆保育理念</p> <p>児童福祉法の理念に基づき、児童の最善の利益を考慮し、養護と教育の一体的な機能を果たしながら豊かな人間性をもった心身ともに健やかな児童を育成します。</p> <p>☆保育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の中でのびのび遊べる子ども ○ 友だちや保育者と過ごす事が好きな子ども ○ よく見、よく聞く子ども ○ 心豊かで自分を表現できる子ども <p>☆保育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人ひとりの権利・個性・発達を大切に保育を進めていきます ○ 少人数の良さを活かした保育をすすめていきます ○ 年間を通じ薄着・また素足保育をおこない、健康な身体づくりをおこないます ○ 保育の中に散歩を多く取り入れ、子どもたちが楽しみながら人や自然と関わる力や、また集団 行動のマナーを身につけられるようにします。 ○ 食事は、季節感のあるバランスの良い献立・安全な食材を心掛け、栄養士、調理員が心を込めてつくります。 ○ 保護者と職員が、子どもの成長や喜びを共有できるよう家庭と保育園が連携していきます ○ 地域社会との連携を大切に、子ども達がお近所の方や近隣の保育施設などと積極的に交流できるよう保育をすすめていきます。さらに、子育て中のお父さん、お母さん達にもお役に立てるよう、育児講座、遊ぼう会などもおこなっていきます 			
④施設・事業所の特徴的な取組			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内保育所として、併設施設である重症心身障害児者施設CAMPソレイユ川崎の従業員の皆様を預かるとともに、地域にて保育が必要な児童の保育を行っています。 ・ 2歳児までの保育園となっており、3歳児以降は連携保育園へのご案内を行っています。 ・ 敷地内の広場には自然が広がっており、子どもたちは毎日散歩をして、虫や草花などの自然に触れながら過ごしています。令和3年度には「ぼうけんのもり」令和6年度には「子ども探索の庭」という区画を整理し、子どもたちが山、森の中で遊べるような空間もあります。 ・ 重度の障がいや医療的ケアが必要なお子様も可能な限りお預かりいたします。どの子も一緒に過ごすことで、お互いの存在を認め合うことを目的に統合保育に取り組んでいます。 			

⑤第三者評価の受審状況	
評価実施期間	2025年6月2日（契約日）～2026年月日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（令和4年度）
⑥総評	
◇特長	
職員主体の対話と専門性向上を軸にした質改善サイクルが確立	
<p>全体的な計画・月案・指導計画を基盤に、クラス会議・職員会議等で子どもの姿を多面的に捉えながら実践を振り返る仕組みが整えられている。入園前アセスメント、医療的ケア児の個別調整、リハ職との協議など専門的視点を統合して計画へ反映する流れも確認できる。園長は「子どもの権利を大切に作る姿勢」を書面・研修双方で示し、対話的な会議運営を通じて保育観の統一を図っている。年間研修は法人研修・園内研修・外部研修の三層で構成され、職員の学びが日々の保育改善につながる設計となっている。防災計画・土砂災害計画・危機管理マニュアル等も整っており、安全面の標準手順が共有されている点も強みである。</p>	
子ども理解を深めるための関わり方の研修に力を入れている	
<p>子ども一人ひとりの状態や思いに寄り添った関わりを大切に、昨年度からは「子どもへの関わり方」をテーマとした園内研修に力を入れている。研修は年2回、全職員が参加できるようグループに分かれて実施し、グループワークやケース検討を通して意見を出し合い、日々の関わりを振り返る機会としている。研修後には振り返りシートを提出し、学びを整理しながら実践につなげている。取り組みを通して、職員同士が考えを共有し、子ども理解を深める姿勢を大切にしながら、今後も継続して取り組んでいく考えである。</p>	
◇今後期待される点	
計画・方針の共有方法と実効性のあるPDCA運用の強化	
<p>事業計画・事業報告で方針や重点項目が整理されている一方、園長は詳細な内容を職員と段階的に共有しきれていない点を課題として認識している。保育の標準的手順や保育観は文書として整っているが、それらの見直し履歴や改善方針を明確に示す仕組みは、今後より体系化が望まれる。職員の目標管理は面談で確認されているものの、年度によって運用に揺れがあり、育成計画としての一体化には改善の余地がある。また、BCPは（法入）で整備されているが、園単位の整理は検討段階であり、医療的ケア児や複合災害を踏まえた園独自の視点を反映した体制整備が課題となる。これらの点を強化することで、組織としての計画性と改善サイクルがさらに明確になる。</p>	
学びを実践につなげ、関わり方の質を高めていくことを目指している	
<p>子どもへの関わり方について研修を重ねる中で、内容の受け止め方や理解には職員の個人差があることを課題としている。研修の学びがその場限りにならないよう、日々の保育場面で具体的に意識し、実践につなげていく工夫が求められている。今後は、共通理解をより深めながら、研修で得た視点を日常の関わりに落とし込み、職員全体の関わり方の質を段階的に高めていくことを目指している。</p>	
⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント	

⑧第三者評価結果 別紙2のとおり